

さいたま市長 6月臨時記者会見

平成19年6月13日（水曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 記者クラブの皆さん、こんにちは。ただいまから臨時記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社の毎日新聞さん、よろしくお願いいたします。

○ 毎日新聞 幹事社の毎日新聞です。

では、市長から説明をお願いいたします。

○ 市 長 はい、よろしくお願いいたします。それでは、2度目の臨時記者会見になりますが、本日は「さいたま夏至の日のライトダウン&星空コンサート」の開催について説明をいたします。

私たちは、便利さや豊かさを追い求めた結果、温室効果ガスを大量に排出し、今日の地球温暖化問題を引き起こしています。

異常気象を初めとした地球温暖化によって生じるさまざまな影響を防ぐためには、経済や社会の仕組みをもう一度見直し、私たちの地球環境と人間生活が共生する持続可能な社会に、一刻も早く転換をしていくことが求められています。

このようなことから、本市ではことしも6月から、地球温暖化防止に向けた「夏のライフスタイルキャンペーン」を実施をすることとし、新たに S a i t a m a C i t y—L i f e と称し、さいたま市の都市型生活スタイルを提案をいたしました。

今回、その一環として、夏至の日の6月22日の夜に、庁舎の施設照明を一斉に消し、星空コンサートを行い、一味違った夏至の日の夜を楽しみ、ふだんの生活スタイルを見直すきっかけづくりとして、市民に呼びかけてまいります。

これは、全国的に行われる環境省主催のCO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーンと歩調を合わせ、夜の8時に、本庁舎、区役所及び保健所の施設照明を一斉に消して、その後、庁舎東側セントラルガーデンにおいて、星空コンサートを行うものでございます。

星空コンサートには、さいたま市の歌「希望（ゆめ）のまち」をTYT

e e n (ティワイティーン) が歌い、また埼玉大学のアカペラグループC HOCOLETZ (チョコレッツ) が明るくさわやかな曲やしっとりとした曲などを歌います。

さらに、「サッカーのまちさいたま市」で活躍している球舞 (キューブ) がサッカーボールを使用してリフティングパフォーマンスを披露いたします。

昨年は、地球温暖化防止に向けて、さいたま市において始めて開催をされた国際会議「エコアジア2006」で、本市の環境の取り組みを世界へ情報発信いたしました。

それから1年を経過しようとしておりますが、今回、このイベントで再び、市民に向け地球温暖化問題について広くアピールをするものでございます。

地球温暖化は世界規模で取り組むとともに、一体となって取り組まなければならない喫緊の課題でありまして、そのため、さいたま市のこうした身近な行動がきっかけとなり、国内外の取り組みへつながるよう期待をし実施をしております。

市民一人一人の力は小さくても、その力を合わせれば大きな力となります。市民の皆様と協働して、地球温暖化に歯どめをかけるという大きな目標に向けて、積極的に行動してまいりたいというふうに考えております。

とりあえず私から以上でございます。

- 毎日新聞           ありがとうございます。
- ただいまの市長の説明に質問がありましたら、お願いいたします。
- 埼玉新聞           通常、庁舎、業務で残っている方は別なんですけど、それ以外で市役所の敷地内でそういう何かライトアップをしているような、夜間ライトアップしているようなところってあるんでしょうか。
- 市 長               ないね。
- 埼玉新聞           ないですか。
- 市 長               今ないですね。全然ないね。一時玉蔵院か何かで木のライトアップやっていたことありましたけどね、今ないですね。
- 埼玉新聞           庁舎内でもないですか。
- 市 長               ありません。

- 埼玉新聞            じゃ、要するにその……
- 市 長                防犯灯はね、夜ついていることはありますけどね。
- 埼玉新聞            はい。じゃ、強いて挙げれば防犯灯ぐらいで……
- 市 長                そうですね。
- 埼玉新聞            それ以外は、業務で残っている方がいるフロアに電気がついている……
- 市 長                はい、その場所だけ。
- 埼玉新聞            そういうのを一斉にすべて……
- 市 長                一斉に消そうと、その日は。その日は残業は無しと、ノー残業デーにもなると。
- テレビ埼玉            この日に、その6月22日、夏至の日にやるというのは、ほかの例えば県内とか、全国の市町村などで、こうやるところってあるんですかね、一斉に。
- 市 長                そうね、夏至の日というのは、さっき申し上げた環境省のCO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーンと連携をするということで、NPOが提唱している100万人のキャンドルナイトを夏至の日に実施をしていますので、地球に住んでいればどこの国でもある、必ずあるこの共通の日にやったらどうかということでの提案を兼ねた参加ということになるのかなと思います。
- 事務局                ちなみに、国の方で行っているそのキャンペーンの昨年度の実績ですけども、約4万施設が参加しております。これ全国です。
- テレビ埼玉            さいたま市が行うのは、今回が初めてですか、この……
- 市 長                初めてですね。
- 時事通信            今回本庁舎と区役所、保健所でのライトダウンということなんですけど、市役所周辺のですね、信号は無理だと思うんですけど、お店とかに協力というのは求められたりはされますか。
- 市 長                なかなか難しいんじゃないかと。とりあえず本庁舎、区役所、保健所と。それで、これ職員の数も多いんで、ライトダウンの効果が大きいだろうということなんです。ふだんから8時以降消灯しているような市役所の施設は除くと、またコミュニティ施設や福祉施設、こういった一般の市民の方がですね、ご利用いただいている施設も、これできませんので、除くということなので、近隣の商店への呼びかけというのはなかなか難しいのかなという、そんな感じがしています。

- 毎日新聞 市の地球温暖化に対する計画の目標値みたいなものってあるんでしょうか。
- 市長 目標値みたいなものなんですが、平成17年度に策定をしております、発表も、公表もしてございますけれども、平成18年度から平成24年度までの期間、京都議定書の第一約束期間ですね、これ平成20年度から平成24年というのが約束期間なので、その最終年度、いわゆる平成24年度に照準を合わせまして、一人頭の温室効果ガスを1990年（平成2年）から6%削減をするという目標を立てております。一人頭の6%減、やはり人口がふえている町と減っている町では、総量規制というのは非常にですね、難易度の差が出てきますので、人口当たりということでの設定をしております。1人当たりでの設定をしています。
- 毎日新聞 その90年はどれくらいだったという数字はありますか。
- 市長 90年は出ているか、数字。
- 事務局 数字といいますと……すみません、よろしいですか。
- 市長 はい。
- 事務局 数字というと。
- 毎日新聞 CO<sub>2</sub>の。
- 事務局 さいたま市域ではCO<sub>2</sub>の排出量は、今言った基準年の1990年、平成2年ですけれども、414.4万トンです。
- 毎日新聞 414……
- 事務局 それは総量です、414.4万トン。それで、1人当たりになりますと4.11トンです。
- 毎日新聞 ちなみに、17年度現在だったり、最近現在の幾らとか、そういうのはあるんですか。
- 事務局 削減排出量につきましては、各種の統計資料をですね、使いまして、それぞれ業種ごとですとか分類しますので、その結果を待ってからじゃないと出ませんので、国とかは近々ですね、2年前ですとか出ておりますが、さいたま市の場合はそのときに、まだ策定したときに出した平成14年度のみです。それ以後は、今のところ出しておりません。今後出す予定です。
- 市長 工業統計調査とか、ああいうのはやっぱり二、三年遅れになりますんでね、数字が。それをもとにして算出をするものですから、なかなか直近の

数字が出てこないというのは、これ悩みですね、確かに。

- 毎日新聞 平成14年度当初はあるんですか。
- 事務局 平成14年度は出ております。この時点では、総量が526.5万トンです。1人あたりにしますと4.56トン、CO<sub>2</sub>ですけれども、4.56トンになります。
- 毎日新聞 東京都では、企業に対して規制をかけるみたいですが、さいたま市としては何か対策……
- 市長 ご協力をお願いするということになるかと思っておりますけれども、さいたま市内は、比較的重工業が少ないんですね。さいたま市のもので、一応主な産業というのは何かというと、光学機械、それから医療器械、こういったものが、生産としてはちょっと抜けて多いんですね。ですから、重厚長大型の工場というのはあまりありませんので、工場にももちろんお願いいたしますけれども、また工業市でもございませんので、その辺は臨機応変にやっていきたいなというふうに思っておりますけれども。
- 埼玉新聞 ライトダウンすることで、いろいろなパフォーマンスもあるようなんですけど、それが見えないということはないですよ。
- 市長 最低の光でやると。蛍の光、窓の雪でやると。
- 埼玉新聞 その最低の光というのは、何か例えば特別なもので。例えば……
- 市長 本来はキャンドルでね、実施をしたいわけなんですけれども、風の影響だとか安全性、こんなことを考慮して、星の形をしたペンライトでありますとかですね、発光体、サイリウムというんですか……
- 事務局 今持っていますけど、こんなような形のものです。
- 市長 これを配布して観客に使ってもらおうということで、なかなか幽玄の世界に遊べるんじゃないでしょうか。  
大宮の薪能なんかもですね、昔は本当に薪のあの明かりだけでやっていたみたいなんですけど、やっぱり見えないとかね、いろんなことで今ライトを当てていますけどね。あれだけお客様見えちゃうと、それは目の前で見ているのと違うから、必要なんだろうと思いますけどね。
- 埼玉新聞 数は、お幾つぐらい用意されるんでしょうか。
- 事務局 今200個ぐらい用意しようとしています。
- 埼玉新聞 200個ずつ、それとも200個合わせて……

- 市 長 トータル200だろう。
- 事務局 そうですね。はい。
- 市 長 200名ぐらい来てくれるといいなという。ぜひ取材方、よろしく願  
いします。フラッシュは控え目に、よろしく願  
いいたします。  
じゃ、いいですか。
- 毎日新聞 どうもありがとうございました。以上をもちまして、記者会見を終わら  
せていただきます。
- 市 長 はい、お疲れさまです。よろしく願  
いします。
- 進 行 以上で記者会見、終わらせていただきます。ありがとうございました。

午前11時11分閉会